

平成29年度 横浜国立大学大学院国際社会科学府  
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

法学既修者コース B 日程入学試験

# 民事系科目

時間 13:00～15:00

●注意事項（よくお読みください）

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 自分の受験番号と机の上の受験番号が同じであることをよく確かめてください。
3. 時計のアラーム、携帯電話等の電源は切ってください。
4. 机の上に置いてよいものは、①受験票、②筆記用具（鉛筆、ペン、消しゴム）、③鉛筆削り（電動式を除く）、④時計（携帯電話やPHSを時計として使用することは認めない）、⑤メガネ、⑥目薬、⑦ティッシュペーパー、⑧ハンカチです。これらは、予め机の上に置いておいてください。
5. 上記4で掲げた試験のために必要なもの以外は、かばんに入れて椅子の下に置いてください。電源を切った携帯電話も、身につけず、かばんに入れてください。
6. 配布物は、①問題冊子、②解答用紙、③下書き用紙、④穴法の4種類です。足りないものがあつたら、挙手で合図し、試験監督にその旨申し出てください。
7. 解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入してください。解答用紙は、全部で5枚あります。そのすべてに受験番号と氏名の記載欄がありますので、漏れなく記入してください。なお、解答用紙はホチキスで綴じられていますが、その針は外さないでください。
8. 試験問題は、問題1～5の5つがあります。必ず指定の解答用紙を使ってください。解答用紙はそれぞれ両面になっています。
9. 試験時間は、120分です。中途退席は原則として試験開始後40分まで認めません。また、中途退席者は、再度入室することができません。試験終了直前の10分間も退席できませんので、よく注意してください。ただし、気分が悪くなったときや、トイレに行く必要があるときなどは、近くの監督者に挙手で合図し、遠慮なく申し出てください。
10. 試験開始後、受験者本人であることの確認（写真照合）を行います。その際は、監督者にご協力ください。



以下の5問、問題1から問題5にすべて解答せよ。  
(配点：全問とも50点)

### 問題1

以下の事実関係を読み、設問に答えなさい。

#### 【事実関係】

2016年5月9日、Aは、自己が所有する横浜市内の商業用地(面積：200平方メートル)(以下、「本件土地」と称する。)につき、Bに対して5000万円で売却する契約を締結した。A B間の契約では、(i) Bは、5月20日までに代金の80パーセント(4000万円)を支払い、その時点で所有権がAからBに移転すること、(ii) 6月20日までに残額を支払い、残額の支払いと同時にAはBに本件土地の所有権移転登記をすること等の旨が定められた。そこで、Bは、5月20日に、4000万円を支払った。

ところで、Bは、本件土地の取得について噂を聞き付けた倉庫業者Cから、6月1日に「事業のために早急に必要なので本件土地を8000万円で譲ってほしい。」という申込みを受けた。Bは、投資目的で本件土地を取得したため、Cからの申込みを快諾して、6月7日にCとの間で本件土地の売買契約を締結した。B C間の契約によると、(i) Cは、Bに対して6月10日までに代金の80パーセント(6400万円)を支払い、その時点で本件土地の所有権がBからCに移転すること、(ii) 残額は6月末日までに支払い、残額の支払いと同時にBはCに本件土地の所有権移転登記をすること等の旨が定められていた。

Cは、6月10日に6400万円をBに支払ったが、上記の事情で本件土地の取得を急いでいたため、その直後Bに相談することなくAと直接に交渉して、BのAに対する未払い代金1000万円をCがAに支払うことと引き換えに、Aから直接Cに対して所有権の移転登記を行うこととし、6月15日に、AからCへの所有権移転登記がなされた。

その後、Bは、6月20日に、Aに対して残額を支払おうとしたが、Aからは、「残額はすでにCから受け取った。その代わり登記も直接Cに移転した。」と返答された。Bは、Cにすでに登記が移ってしまったため大きな不安を抱いたが、案の定、その後CからBに対しては、何の連絡もないまま1か月が過ぎてしまった。

#### 〔設問1〕

上記のように、Bを経ずにAからCに登記を直接移転することを何と称するか。(15点)

#### 〔設問2〕

Bの抱いた「大きな不安」(下線部参照)とは、どのようなものであると考えられるか。(15点)

#### 〔設問3〕

Bは、AからCへの移転登記は無効であるとして、Cに対して登記の抹消を請求したい。Bの請求は認められるであろうか。(20点)

## 問題 2

民法423条に基づく債権者代位権について、代位債権者が事実上優先弁済を受けることができるといわれている理由を、債権者代位権の本来の制度趣旨から導かれる帰結と比較しながら説明しなさい。

### 問題3

遺産中の可分債権が共同相続人らによる遺産分割の対象となるかについて、説明しなさい。

#### 問題 4

公開会社において譲渡制限株式以外の株式を発行する場合、株主割当てによる新株発行が、公募や第三者割当てによる場合と比べて既存株主の経済的利益・持株比率の維持に資することについて説明しなさい。

## 問題5

「訴えの取下げ」と「請求の放棄」の各概念の定義を述べた上で、両者の共通点と相違点を説明しなさい。